

大阪府道高速大阪池田線に関する協定の一部を変更する協定

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構と阪神高速道路株式会社は、高速道路株式会社法（平成16年法律第99号）第6条第1項及び独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法（平成16年法律第100号）第13条第1項の規定に基づき平成18年3月31日付けで締結した「大阪府道高速大阪池田線等に関する協定」の一部を次のように変更する協定を締結する。

別紙1-1、別紙1-4、別紙1-10、別紙1-12、別紙1-13を次のとおり改める。

(協定第 4 条第 1 項及び第 5 条第 1 項関連)

(機構法第 1 3 条第 1 項第 2 号及び 4 号に定める協定記載事項)

大阪府道高速大和川線

(大阪府堺市堺区築港八幡町から大阪府松原市三宅西七丁目まで) に関する
工事の内容 及び 工事に要する費用に係る債務引受限度額

1. 工事の内容

(1) 路線名 大阪府道高速大和川線

(2) 工事の区間

(イ) 工事の区間 大阪府堺市堺区築港八幡町 から
大阪府松原市三宅西七丁目 まで

(ロ) 延 長 9. 1キロメートル

(3) 工事方法

(イ) 事業方式 公共事業・有料道路事業 合併施行方式

(ロ) 道路の区分 第2種第1級（道路構造令）

(ハ) 設計速度

設計区間	設計速度 (キロメートル/時)	延長 (キロメートル)	摘要
大阪府堺市堺区築港八幡町 から 大阪府堺市堺区松屋大和川通三丁 まで	60	0. 6	
大阪府堺市堺区松屋大和川通三丁 から 大阪府松原市三宅西七丁目 まで	80	8. 5	

(ニ) 設計自動車荷重 245 kN（B活荷重）

(ホ) 車線の幅員 3. 50メートル

(へ) 車線数

設計区間	工事施工	用地買収	摘要
大阪府堺市堺区築港八幡町 から 大阪府松原市三宅西七丁目 まで	4車線	4車線	

(ト) 路肩の標準幅員

(単位：メートル)

構造による区分	往復分離しない区間		往復分離する区間			摘要
	左側	計	左側	右側	計	
土工(掘割)部分	—	—	1.25	0.75	2.00	
トンネル部分	—	—	1.25	0.75	2.00	
橋梁高架部分	—	—	1.25	0.75	2.00	

(チ) 付加車線の標準幅員

—

(リ) 中央帯の標準幅員

2.25メートル (土工部)
2.25メートル (橋梁部)
2.70メートル (掘割部)

(ヌ) 他の道路との接続位置及び接続の方法

他の道路の路線名	接続の位置	接続の方法	備考
大阪府道高速湾岸線	堺市堺区築港八幡町付近	立体接続	三宝ジャンクション
都市計画道路築港天美線	堺市堺区築港八幡町付近	立体接続	三宝出入路
一般国道26号	堺市堺区南島町一丁付近	立体接続	鉄砲出入路
一般国道26号	堺市堺区鉄砲町付近	立体接続	鉄砲出入路
大阪府道大阪高石線	堺市北区北花田町三丁付近	立体接続	常磐出入路
大阪府道大阪高石線	堺市北区常磐町三丁付近	立体接続	常磐出入路
都市計画道路堺松原線	松原市天美北一丁目付近	立体接続	天美出入路

(4) 工事予算 263,664百万円 (消費税込み)

(5) 工事の着手及び完成の予定年月日

①工事の着手年月日

イ 大阪府堺市堺区築港八幡町から大阪府堺市北区常磐町一丁まで
平成11年10月15日

ロ 大阪府堺市北区常磐町一丁から大阪府堺市北区常磐町二丁まで
平成29年10月1日

ハ 大阪府堺市北区常磐町二丁から大阪府松原市三宅西七丁目まで
平成30年4月1日

・ なお、合併施行方式における工事の着手日とは、会社が公共事業者から事業引継ぎを受ける年月日をいう

②工事の完成予定年月日

平成29年 1月28日 (三宝ジャンクション～鉄砲 供用開始)

令和 2年 3月29日 (鉄砲～三宅西 供用開始)

令和 5年 3月31日 (残事業完成)

2. 工事に要する費用に係る債務引受限度額

238,416百万円 (消費税込み)

(うち、助成対象基準額 237,636百万円) (消費税込み)

別紙 1 - 4

(協定第 4 条第 1 項及び第 5 条第 1 項関連)

(機構法第 1 3 条第 1 項第 2 号及び 4 号に定める協定記載事項)

大阪市道高速道路淀川左岸線 (大阪府大阪市此花区高見一丁目から大阪府大阪市北区豊崎六丁目まで) に関する 工事の内容 及び 工事に要する費用に係る債務引受限度額

1. 工事の内容

(1) 路線名 大阪市道高速道路淀川左岸線

(2) 工事の区間

(イ) 工事の区間 大阪府大阪市此花区高見一丁目 から
大阪府大阪市北区豊崎六丁目 まで

(ロ) 延 長 4. 4キロメートル

(3) 工事方法

(イ) 事業方式 公共事業・有料道路事業 合併施行方式

(ロ) 道路の区分 第2種第2級（道路構造令）

(ハ) 設計速度

設計区間	設計速度 (キロメートル/時)	延長 (キロメートル)	摘要
大阪府大阪市此花区高見一丁目 から 大阪府大阪市北区豊崎六丁目 まで	60	4. 4	

(ニ) 設計自動車荷重 245 kN（B活荷重）

(ホ) 車線の幅員 3. 25メートル

(へ) 車線数

設計区間	工事施工	用地買収	摘要
大阪府大阪市此花区高見一丁目 から 大阪府大阪市北区豊崎六丁目 まで	4車線	4車線	

(ト) 路肩の標準幅員

(単位：メートル)

構造による区分	往復分離しない区間		往復分離する区間			摘要
	左側	計	左側	右側	計	
土工（掘割）部分	—	—	1.25	0.75	2.00	
トンネル部分	—	—	1.25	0.75	2.00	
橋梁高架部分	—	—	1.25	0.75	2.00	

(チ) 付加車線の標準幅員

—

(リ) 中央帯の標準幅員

2.00メートル

(ヌ) 他の道路との接続位置及び接続の方法

他の道路の路線名	接続の位置	接続の方法	備考
大阪府道高速大阪西宮線	大阪市此花区高見一丁目付近	立体接続	海老江ジャンクション
大阪都市計画道路淀川南岸線	大阪市福島区大開四丁目付近	立体接続	海老江北出路(仮称)
大阪都市計画道路淀川南岸線	大阪市福島区海老江六丁目付近	立体接続	海老江北入路(仮称)
大阪都市計画道路西野田中津線	大阪市北区大淀北一丁目付近	立体接続	大淀出路(仮称)
大阪市道堂島十三線	大阪市北区大淀北一丁目付近	立体接続	大淀入路(仮称)
一般国道176号(十三ハイパス)	大阪市北区中津七丁目付近	立体接続	大淀入路(仮称)
一般国道423号(新御堂筋)	大阪市北区豊崎七丁目付近	立体接続	豊崎出入路(仮称)
一般国道1号(淀川左岸線延伸部)	大阪市北区豊崎六丁目付近	平面接続	本線

(4) 工事予算 9, 463百万円 (消費税込み)

(5) 工事の着手及び完成の予定年月日

①工事の着手(予定)年月日

イ 大阪府大阪市此花区高見一丁目84-19から大阪府大阪市此花区高見一丁目84-12まで
昭和63年 2月10日

ロ 大阪府大阪市此花区高見一丁目84-12から大阪府大阪市北区豊崎六丁目まで
令和7年 4月 1日

- ・ なお、合併施行方式における工事の着手予定日とは、全ての範囲について、会社が公共事業者から事業引継ぎを受ける予定年月日をいう

②工事の完成予定年月日

令和9年 3月31日

2. 工事に要する費用に係る債務引受限度額

9, 389 百万円 (消費税込み)

(うち、助成対象基準額 8, 957 百万円) (消費税込み)

別紙 1 - 10

(協定第 4 条第 1 項及び第 5 条第 1 項関連)

(機構法第 13 条第 1 項第 2 号及び 4 号に定める協定記載事項)

大阪府道高速大阪池田線（改築）（信濃橋渡り線）に関する 工事の内容 及び 工事に要する費用に係る債務引受限度額

1. 工事の内容

(1) 路線名 大阪府道高速大阪池田線

(2) 工事の区間

(イ) 工事の区間 大阪府大阪市西区西本町から

大阪府大阪市西区江戸堀まで

(ロ) 延長 1.7キロメートル

(3) 工事方法

(イ) 道路の区分 第2種第2級(道路構造令)

(ロ) 設計速度

設計区間	設計速度 (キロメートル/時)	延長 (キロメートル)	摘要
大阪府大阪市西区西本町3丁目から 大阪府大阪市西区西本町1丁目まで	60	0.8	
大阪府大阪市西区西本町1丁目から 大阪府大阪市西区西本町1丁目まで	40	0.2	
大阪府大阪市西区西本町1丁目から 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目まで	60	0.7	

(ハ) 設計自動車荷重 245 kN (B活荷重)

(二) 車線の幅員 3.25メートル 大阪府大阪市西区西本町から
大阪府大阪市西区江戸堀まで

(ホ) 車線数

設計区間	工事施工	用地買収	摘要
大阪府大阪市西区西本町から 大阪府大阪市西区江戸堀まで	—	—	付加車線事業

(ヘ) 路肩の標準幅員

(単位：メートル)

構造による区分	往復分離しない区間		往復分離する区間			摘要
	左側	計	左側	右側	計	
土工（掘割）部分	—	—	—	—	—	
トンネル部分	—	—	—	—	—	
橋梁高架部分	—	—	1.75	0.75	2.50	

(ト) 付加車線の標準幅員

3.25メートル

(チ) 中央帯の標準幅員

—

(リ) 他の道路との接続の位置及び接続の方法

他の道路の路線名	接続の位置	接続の方法	備考
大阪府道高速大阪東大阪線	大阪市西区西本町付近	立体接続	信濃橋渡り線

(4) 工事予算 16,899 百万円 (消費税込み)

(5) 工事の着手及び完成の予定年月日

①工事の着手年月日

平成23年11月21日

②工事の完成予定年月日

令和2年 1月29日 (供用開始)

令和4年 3月31日 (残事業完成)

2. 工事に要する費用に係る債務引受限度額

19,425 百万円 (消費税込み)

(うち、助成対象基準額 19,425 百万円) (消費税込み)

別紙 1 - 1 2

(協定第 4 条第 1 項及び第 5 条第 1 項関連)

(機構法第 1 3 条第 1 項第 2 号及び 4 号に定める協定記載事項)

一般国道 1 号 (淀川左岸線延伸部)

(大阪府大阪市鶴見区緑地公園から大阪府大阪市北区豊崎六丁目まで) に関する
工事の内容 及び 工事に要する費用に係る債務引受限度額

1. 工事の内容

(1) 路線名 一般国道1号
(有料道路名 : 淀川左岸線延伸部)

(2) 工事の区間

(イ) 工事の区間 大阪府大阪市鶴見区緑地公園 から
大阪府大阪市北区豊崎六丁目 まで

(ロ) 延 長 7.6キロメートル

(3) 工事方法

(イ) 事業方式 公共事業・有料道路事業 合併施行方式

(ロ) 道路の区分 第2種第2級 (道路構造令)

(ハ) 設計速度

設計区間	設計速度 (キロメートル/時)	延長 (キロメートル)	摘要
大阪府大阪市鶴見区緑地公園 から 大阪府大阪市北区豊崎六丁目 まで	60	7.6	

(ニ) 設計自動車荷重 245 kN (B活荷重)

(ホ) 車線の幅員 3.25メートル

(へ) 車線数

設計区間	工事施工	用地買収	摘要
大阪府大阪市鶴見区緑地公園 から 大阪府大阪市北区豊崎六丁目 まで	4車線	4車線	

(ト) 路肩の標準幅員

(単位：メートル)

構造による区分	往復分離しない区間		往復分離する区間			摘要
	左側	計	左側	右側	計	
土工（掘割）部分	—	—	—	—	—	
トンネル部分	—	—	1.25	0.75	2.00	
橋梁高架部分	—	—	—	—	—	

(チ) 付加車線の標準幅員

—

(リ) 中央帯の標準幅員

—

(ヌ) 他の道路との接続位置及び接続の方法

他の道路の路線名	接続の位置	接続の方法	備考
一般国道1号(淀川左岸線延伸部)	大阪市鶴見区緑地公園付近	平面接続	本線(西日本高速道路株式会社)
大阪市道鶴見区第9001号線	大阪市鶴見区横堤五丁目付近	立体接続	内環出路(仮称)
大阪市道鶴見区第9001号線	大阪市鶴見区横堤四丁目付近	立体接続	内環入路(仮称)
一般国道423号(新御堂筋)	大阪市北区豊崎六丁目付近	立体接続	豊崎第1出入路(仮称)
大阪都市計画道路淀川南岸線	大阪市北区豊崎六丁目付近	立体接続	豊崎第2出入路(仮称)
大阪市道高速道路淀川左岸線	大阪市北区豊崎六丁目付近	平面接続	本線

(4) 工事予算 162,949 百万円 (消費税込み)

(5) 工事の着手及び完成の予定年月日

①工事の着手予定年月日

イ 大阪府大阪市鶴見区緑地公園から大阪府大阪市都島区友渚町二丁目まで
令和12年 4月 1日

ロ 大阪府大阪市都島区友渚町二丁目から大阪府大阪市北区豊崎六丁目まで
平成29年 4月21日

・なお、合併施行方式における工事の着手予定年月日とは、会社が
公共事業者から事業引継ぎを受ける予定年月日をいう

②工事の完成予定年月日

令和14年3月31日

2. 工事に要する費用に係る債務引受限度額

200,888 百万円 (消費税込み)

(うち、助成対象基準額 192,140 百万円) (消費税込み)

(協定第 4 条第 1 項及び第 5 条第 1 項関連)

(機構法第 1 3 条第 1 項第 2 号及び 4 号に定める協定記載事項)

一般国道 2 号(大阪湾岸道路西伸部 (六甲アイランド北～駒栄))
(兵庫県神戸市東灘区向洋町東一丁目から兵庫県神戸市長田区西尻池町五丁目まで) に関する
工事の内容 及び 工事に要する費用に係る債務引受限度額

1. 工事の内容

(1) 路線名 一般国道2号
(有料道路名 : 大阪湾岸道路西伸部 (六甲アイランド北~駒栄))

(2) 工事の区間

(イ) 工事の区間 兵庫県神戸市東灘区向洋町東一丁目 から
兵庫県神戸市長田区西尻池町五丁目 まで

(ロ) 延 長 14.5キロメートル

(3) 工事方法

(イ) 事業方式 公共事業・有料道路事業 合併施行方式

(ロ) 道路の区分 第2種第1級 (道路構造令)
第2種第2級 (道路構造令)

(ハ) 設計速度

設計区間	設計速度 (キロメートル/時)	延長 (キロメートル)	摘要
兵庫県神戸市東灘区向洋町東一丁目から 兵庫県神戸市長田区苅藻島町三丁目まで	80	13.1	
兵庫県神戸市長田区苅藻島町三丁目から 兵庫県神戸市長田区西尻池町五丁目まで	60	1.4	

(ニ) 設計自動車荷重 245 kN (B活荷重)

(ホ) 車線の幅員 3.50メートル
3.25メートル

(へ) 車線数

設計区間	工事施工	用地買収	摘要
兵庫県神戸市東灘区向洋町東一丁目から 兵庫県神戸市長田区苅藻島町三丁目まで	6車線	6車線	
兵庫県神戸市長田区苅藻島町三丁目から 兵庫県神戸市長田区西尻池町五丁目まで	4車線	4車線	

(ト) 路肩の標準幅員

(単位：メートル)

構造による区分	往復分離しない区間		往復分離する区間			摘要
	左側	計	左側	右側	計	
土工（掘割）部分	—	—	—	—	—	
トンネル部分	—	—	1. 2 5	0. 7 5	2. 0 0	
橋梁高架部分	1. 7 5 × 2	3. 5 0	1. 7 5	0. 7 5	2. 5 0	

(チ) 付加車線の標準幅員

—

(リ) 中央帯の標準幅員

2. 2 5メートル

(ヌ) 他の道路との接続位置及び接続の方法

他の道路の路線名	接続の位置	接続の方法	備考
兵庫県道高速湾岸線	神戸市東灘区向洋町東一丁目付近	平面接続	本線
臨港道路	神戸市東灘区向洋町西二丁目付近	立体接続	六甲アイランド西出入路(仮称)
臨港道路	神戸市中央区港島四丁目付近	立体接続	ポートアイランド東出入路(仮称)
臨港道路	神戸市中央区港島中町八丁目付近	立体接続	ポートアイランド西出入路(仮称)
神戸市道西出高松前池線	神戸市長田区南駒栄町付近	立体接続	駒栄(南向き)出入路(仮称)
神戸市道西出高松前池線	神戸市長田区南駒栄町付近	立体接続	駒栄(北向き)入路(仮称)
神戸市道西出高松前池線	神戸市長田区駒栄町一丁目付近	立体接続	駒栄(北向き)出路(仮称)
神戸市道高速道路2号線	神戸市長田区西尻池町五丁目付近	平面接続	本線

(4) 工事予算

254,549百万円 (消費税込み)

(5) 工事の着手及び完成の予定年月日

①工事の着手予定年月日

- イ 兵庫県神戸市東灘区向洋町東一丁目から兵庫県神戸市東灘区向洋町西一丁目まで
平成29年 4月21日
- ロ 兵庫県神戸市東灘区向洋町西一丁目から兵庫県神戸市長田区苅藻島町三丁目まで
令和8年 4月 1日
- ハ 兵庫県神戸市長田区苅藻島町三丁目から兵庫県神戸市長田区西尻池町五丁目まで
平成29年 4月21日

・なお、合併施行方式における工事の着手年月日とは、会社が公共事業者から事業引継を受ける予定年月日をいう

②工事の完成予定年月日

令和14年3月31日

2. 工事に要する費用に係る債務引受限度額

318,330百万円 (消費税込み)

(うち、助成対象基準額 304,424百万円) (消費税込み)

別紙 3 を次のとおり改める。

別紙 3

(協定第 5 条第 2 項関連)

(機構法第13条第1項第4号に定める協定記載事項)

修繕に係る工事に要する費用に係る債務引受限度額

修繕に係る工事に要する費用に係る債務引受限度額

(百万円、消費税込み)

年度	債務引受限度額
H18	3,743
H19	2,992
H20	6,361
H21	7,254
H22	12,144
H23	7,500
H24	8,568
H25	13,105
H26	12,518
H27	38,551
H28	12,426
H29	15,637
H30	17,461
R1	21,901
R2	18,896
R3	26,415
R4	78,235
R5	33,015
R6	26,965
R7	20,481
R8	19,366
R9	18,231
R10	17,578
R11	16,428
R12	16,471
R13	16,529
R14	16,895
R15	17,637
R16	18,086
R17	18,682
R18	18,763
R19	19,727
R20	19,754
R21	19,939
R22	19,961
R23	19,930
R24	19,930
R25	20,192
R26	20,466
R27	20,467
R28	20,650
R29	20,867
R30	20,866
R31	20,863
R32	20,863
R33	20,887
R34	21,632
R35	21,748
R36	21,748
R37	21,748
R38	21,748
R39	21,748
R40	21,748
R41	21,748
R42	21,748
R43	21,748
R44	10,116

(注1)平成18年度から令和2年度までは実績値を、令和3年度は実績見込値を記載している。

(注2)上記記載の債務引受限度額については、限度額に残余が生じた場合は、繰り越しを認めるものとする。

(注3)特定更新等工事に要する費用に係る額を除く。

別紙 4 を次のとおり改める。

別紙 4

(協定第 6 条第 1 項関連)

(機構法第13条第1項第5号に定める協定記載事項)

災害復旧に要する費用に係る債務引受限度額

災害復旧に要する費用に係る債務引受限度額

(百万円、消費税込み)

債務引受限度額	6,324
---------	-------

別紙5を次のとおり改める。

無利子貸付けの貸付計画

阪神高速道路株式会社に対する無利子貸付計画

(百万円、消費税込み)

年度	無利子貸付計画額
H18	15,572
H19	20,158
H20	18,418
H21	15,105
H22	16,916
H23	18,536
H24	20,500
H25	14,214
H26	13,842
H27	10,998
H28	3,876
H29	3,510
H30	3,078
R1	2,886
R2	624
R3	462
R4	228
R5	42
R6	42
R7	1,086
R8	1,836
R9	0
R10	0
R11	0
R12	0
R13	0
R14	0
R15	0
R16	0
R17	0
R18	0
R19	0
R20	0
R21	0
R22	0
R23	0
R24	0
R25	0
R26	0
R27	0
R28	0
R29	0
R30	0
R31	0
R32	0
R33	0
R34	0
R35	0
R36	0
R37	0
R38	0
R39	0
R40	0
R41	0
R42	0
R43	0
R44	0

(注)平成18年度から令和2年度は実績値を、令和3年度は実績見込値を記載している。

別紙6を次のとおり改める。

(協定第9条第1項関連)
(機構法第13条第1項第7号に定める協定記載事項)

道路資産の貸付料の額

阪神高速道路株式会社に対する道路資産の貸付料

(百万円、消費税込み)

年度	貸付料				
		うち土地・家屋分	うち構築物等分		
				うち盛土・切土・のり面構築物等分	うち橋梁・トンネル等分
H 1 8	(147,723) 147,723	(19,829) 10,732	(111,997) 121,107	(4,206) 3,599	(107,791) 117,508
H 1 9	(146,986) 146,986	(19,718) 10,672	(111,371) 134,633	(4,182) 4,001	(107,189) 130,632
H 2 0	(146,498) 137,970	(19,644) 9,938	(110,956) 126,415	(4,167) 3,757	(106,790) 122,658
H 2 1	(131,661) 119,397	(17,413) 8,426	(98,352) 109,678	(3,693) 3,260	(94,659) 106,418
H 2 2	(135,455) 121,332	(22,761) 8,583	(128,563) 96,865	(4,828) 2,879	(123,735) 93,986
H 2 3	(127,152) 127,152	(11,676) 9,024	(131,769) 101,835	(3,916) 3,026	(127,853) 98,809
H 2 4	(130,237) 132,318	(9,193) 9,362	(103,743) 105,654	(3,083) 3,140	(100,659) 102,514
H 2 5	(135,875) 135,875	(9,652) 9,652	(108,922) 108,922	(3,237) 3,237	(105,685) 105,685
H 2 6	(142,506) 139,934	(10,242) 10,033	(115,586) 113,223	(3,435) 3,365	(112,151) 109,859
H 2 7	(137,374) 137,374	(9,749) 9,749	(110,023) 110,023	(3,270) 3,270	(106,753) 106,753
H 2 8	(142,222) 137,736	(10,144) 9,779	(114,476) 110,355	(3,402) 3,280	(111,074) 107,075
H 2 9	(148,240) 149,946	(10,634) 10,773	(120,004) 121,571	(3,566) 3,613	(116,438) 117,958
H 3 0	(153,444) 153,444	(11,058) 11,058	(124,785) 124,785	(3,708) 3,708	(121,076) 121,076
R 1	(152,896) 149,913	(10,091) 9,849	(113,881) 111,141	(3,384) 3,303	(110,497) 107,838
R 2	(152,957) 132,085	(9,950) 8,251	(112,283) 93,110	(3,337) 2,767	(108,946) 90,343
R 3	(136,680) 136,139	(8,573) 8,529	(96,746) 96,249	(2,875) 2,860	(93,870) 93,388
R 4	144,659	9,175	103,546	3,077	100,468
R 5	149,545	9,573	108,034	3,211	104,823
R 6	157,162	10,193	115,031	3,419	111,612
R 7	161,256	10,526	118,792	3,530	115,261
R 8	160,238	10,444	117,856	3,503	114,354
R 9	162,637	10,639	120,060	3,568	116,492
R 1 0	164,344	10,778	121,628	3,615	118,013
R 1 1	166,081	10,919	123,224	3,662	119,562
R 1 2	167,364	11,024	124,402	3,697	120,705
R 1 3	168,791	11,140	125,713	3,736	121,977
R 1 4	184,286	12,401	139,947	4,159	135,788
R 1 5	187,363	12,652	142,773	4,243	138,530
R 1 6	190,052	12,870	145,244	4,317	140,927
R 1 7	189,874	12,856	145,080	4,312	140,768
R 1 8	188,748	12,764	144,046	4,281	139,765
R 1 9	187,913	12,696	143,279	4,258	139,021
R 2 0	187,391	12,654	142,799	4,244	138,555
R 2 1	187,276	12,645	142,693	4,241	138,453
R 2 2	185,852	12,529	141,385	4,202	137,184
R 2 3	183,829	12,364	139,527	4,147	135,380
R 2 4	182,337	12,242	138,157	4,106	134,051
R 2 5	181,147	12,146	137,063	4,073	132,990
R 2 6	179,046	11,975	135,133	4,016	131,117
R 2 7	177,733	11,868	133,927	3,980	129,947
R 2 8	176,564	11,773	132,853	3,948	128,905
R 2 9	175,721	11,704	132,079	3,925	128,154
R 3 0	173,388	11,514	129,936	3,862	126,074
R 3 1	171,629	11,371	128,320	3,814	124,507
R 3 2	170,192	11,254	127,000	3,774	123,226
R 3 3	169,137	11,168	126,031	3,746	122,285
R 3 4	166,865	10,983	123,944	3,684	120,260
R 3 5	165,151	10,844	122,369	3,637	118,733
R 3 6	163,650	10,721	120,991	3,596	117,395
R 3 7	162,907	10,661	120,308	3,575	116,733
R 3 8	160,796	10,489	118,369	3,518	114,851
R 3 9	159,277	10,365	116,974	3,476	113,497
R 4 0	157,969	10,259	115,772	3,441	112,331
R 4 1	156,660	10,152	114,570	3,405	111,165
R 4 2	156,197	10,115	114,144	3,392	110,752
R 4 3	154,228	9,954	112,336	3,339	108,997
R 4 4	50,931	1,546	17,447	519	16,928

(注)平成18年度から令和2年度の上段()内は計画値、下段は実績値を、令和3年度の上段()内は計画値、下段は実績見込値を記載している。

別紙 7 を次のとおり改める。

計画料金収入の額

阪神高速道路株式会社における計画料金収入

(百万円、消費税込み)

年度	計画料金収入
H 1 8	(189, 911) 189, 740
H 1 9	(190, 640) 189, 834
H 2 0	(191, 065) 180, 626
H 2 1	(177, 337) 163, 300
H 2 2	(181, 344) 165, 408
H 2 3	(168, 254) 169, 546
H 2 4	(171, 685) 175, 483
H 2 5	(178, 428) 177, 934
H 2 6	(184, 388) 179, 972
H 2 7	(182, 758) 181, 526
H 2 8	(188, 628) 182, 255
H 2 9	(192, 290) 195, 919
H 3 0	(198, 808) 197, 354
R 1	(199, 141) 194, 167
R 2	(199, 057) 176, 194
R 3	(187, 980) 185, 559
R 4	195, 792
R 5	200, 348
R 6	204, 529
R 7	208, 532
R 8	208, 576
R 9	211, 108
R 1 0	211, 932
R 1 1	213, 336
R 1 2	214, 216
R 1 3	214, 805
R 1 4	233, 469
R 1 5	236, 364
R 1 6	239, 288
R 1 7	239, 067
R 1 8	237, 563
R 1 9	236, 715
R 2 0	235, 867
R 2 1	235, 665
R 2 2	234, 200
R 2 3	232, 504
R 2 4	230, 837
R 2 5	229, 830
R 2 6	227, 562
R 2 7	225, 925
R 2 8	224, 316
R 2 9	223, 320
R 3 0	221, 100
R 3 1	219, 521
R 3 2	217, 942
R 3 3	216, 987
R 3 4	214, 842
R 3 5	213, 292
R 3 6	211, 772
R 3 7	210, 829
R 3 8	208, 760
R 3 9	207, 239
R 4 0	205, 777
R 4 1	204, 286
R 4 2	203, 381
R 4 3	201, 391
R 4 4	93, 358

(注) 平成18年度から令和2年度までの上段()内は計画値、下段は実績値を、令和3年度の上段()内は計画値、下段は実績見込値を記載している。

別紙 8 を次のとおり改める。

料金の額及びその徴収期間

料金の額及びその徴収期間

[1] 基本料金の額

阪神高速道路（本協定第3条に掲げる路線をいう。以下同じ。）における基本料金の額は、1回の通行につき、以下のとおりとする。なお、未供用の路線又は区間については、供用開始の期日から適用する。

一. 1キロメートル当たりの料金の額と固定額

(1) 1キロメートル当たりの料金の額

利用距離に対して課する1キロメートル当たりの料金の額は、下表のとおりとする。

車種区分	料金の額（円）
軽自動車等	23.616
普通車	29.52
中型車	35.424
大型車	48.708
特大車	81.18

(注) 上表において「軽自動車等」、「普通車」、「中型車」、「大型車」及び「特大車」とあるのは、それぞれ別添1の自動車の車種区分をいう（以下同じ。）。

(2) 利用1回に対して課する固定額

利用1回に対して課する固定額は、250円とする。

二. 適用方法

(1) 利用距離

阪神高速道路の入口、出口又は阪神高速道路と西日本高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社若しくは神戸市道路公社等の管理する道路との接続部（以下「出入口等」という。）の相互間の利用距離は、街路との接続部から入口の本線合流部及び出口の本線分流部までの延長を距離に算入せず、出入口等の相互間の最短経路により算出した距離とし、別添2のとおりとする。

(注)

A 利用距離は次の原則に従い定めるものとする。ただし、記一に定める額を適用する時点において供用されていない出入口等に関する利

用距離については、当該出入口等に係る供用開始の期日から適用する。

a: 出入口等の相互間の経路が複数存在する場合は、実際に通行した経路にかかわらず、阪神高速道路のみを通行したときの最短経路により算出した距離を利用距離とする。

b: 出入口等の相互間の距離が通行する方向により異なる場合は、実際に利用した経路にかかわらず、短い距離となる通行方向の距離を利用距離とする。

c: 実際に通行した阪神高速道路の入口又は阪神高速道路と西日本高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社若しくは神戸市道路公社等の管理する道路との接続部（以下「入口等」という。）及び阪神高速道路の出口又は阪神高速道路と西日本高速道路株式会社、本州四国連絡高速道路株式会社若しくは神戸市道路公社等の管理する道路との接続部（以下「出口等」という。）による利用距離に比して、当該入口の直前の入口等又は当該出口の直後の出口等を採用した場合の利用距離が短くなる場合については、当該直前の入口等又は当該直後の出口等を利用したものとして利用距離を適用する。ただし、実際に通行した入口等及び出口等が、当該利用距離を適用する入口等及び出口等相互間の最短経路上に存在する経路に限る。

d: 記〔7〕一により通行する場合は、乗継のため、阪神高速道路を流出するまでの利用距離と引き続いて阪神高速道路に再流入してからの利用距離を合算した距離を利用距離とする。なお、記〔7〕一により通行する場合の経路〔ただし、神戸市道生田川箕谷線（全線を通行する経路に限る。）と兵庫県道高速神戸西宮線とを引き続いて通行する場合は除く。〕は、aに規定する出入口等の相互間の経路に含めない。

B 現金車〔ETC車〔有料道路自動料金収受システムを使用する料金徴収事務の取扱いに関する省令（平成11年建設省令第38号。以下「建設省令」という。）第1条に規定する有料道路自動料金収受システム（以下「ETCシステム」という。）を使用して無線通信により料金を徴収する自動車を用いる。ただし、無線通信による通行を意図するも、事情により無線通信による通行が不可能となった場合には、無線通信による通行の有無にかかわらず、無線通信により通行したものとみなす。以下同じ。〕及びETC車以外の自動車であって、ETC専用施設〔道路整備特別措置法施行規則（昭和31年建設省令第18号）第13条第2項第3号に規定するETC専用施設を用いる。以下同じ。〕のみが設置された出入口等に進入し通行する自動車以外の自動車を用いる。以下同じ。〕は、入口等から利用可能（記〔7〕一に定める通行方法による場合を含む。以下同じ。）な最遠の出口等までの距離（別添3に掲げる出入口等を利用する場合においては、同表に掲げる距離）を利用距離とする。

C 未供用の路線の供用開始等の理由により、別添2又は別添3に掲げる表について軽微な変更を行う場合には、事前に独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「機構」という。）に届出をする。

(2) 出入口等の相互間の料金の計算額

出入口等の相互間の料金の計算額は、車種ごとに出入口等の相互間の利用距離に応じて、次の計算式により算出するものとする。

料金の計算額＝LR＋F（単位：円）

注）上記計算式においてL、R及びFは、それぞれ次の数値を表すものとする。

L：出入口等の相互間の利用距離（単位：キロメートル）

R：1キロメートル当たりの料金の額（単位：円）

F：利用1回に対して課する固定額（単位：円）

（3）料金調整

① 通行止めに伴う料金調整

最初に阪神高速道路に流入した入口等をA、通行止めによって阪神高速道路の連続した利用が不可能となったことを理由として通行止め区間を迂回する経路の起点となる途中流出口をB、途中流出後、当該迂回経路の終点となる阪神高速道路への再流入入口をC、阪神高速道路に再流入した後の最終流出口等をDとし、通行止めによって阪神高速道路の連続した利用が不可能となったことを理由として、A、B及びCの走行により迂回走行した自動車が、Cにおいて通行止めによる迂回走行の事実を示し、阪神高速道路を順方向にDまで走行した場合の料金の額について、以下のように料金調整を行った額を徴収する。

イ ETC車の場合の料金調整

AB間の利用距離とCD間の利用距離を合算して、記（2）の計算式により算出した料金を適用する。

ロ 現金車の場合の料金調整

AB間の通行とCD間の通行を1回の通行とみなして、Aからの利用距離に応じて記（2）の計算式により算出した料金を適用する。

② 特定更新等工事その他通行止め及び車線規制を行う工事に伴う料金調整

阪神高速道路の特定区間における特定更新等工事その他通行止め及び車線規制を行う工事を実施するにあたり、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法（平成16年法律第100号）第13条第1項第7号に定める道路資産の貸付料（以下「貸付料」という。）の支払いに支障のない範囲内で、交通の分散等を目的として特定区間の代替路となる阪神高速道路を利用した場合及び特定区間を迂回するために途中流出し、再流入した場合の料金調整をするときには、料金の調整を行う自動車、料金調整額及び実施期間等について、事前に機構に届け出るものとする。

〔2〕ETC専用施設のみが設置された出入口等にETC車以外の自動車が進入し通行する場合における料金の額

一. 1回当たりの料金の額

記〔1〕にかかわらず、別添2に掲げるETC専用施設のみが設置された出入口等にETC車以外の自動車が進入した場合において、当該出

入口等から退出できずやむを得ず阪神高速道路を通行せざるを得ない場合の料金の額は、1回の通行につき1台当たり、入口等から利用可能な最遠の出口等までの距離を利用距離とし、記〔1〕二（2）の計算式により算出した額とする。

ただし、別添3に掲げるETC専用施設のみが設置された出入口等を利用する場合には、同表に掲げる距離を利用距離とする。

なお、適用した料金の額が下表に掲げる額に満たない場合は、平成29年6月1日以降阪神高速道路株式会社（以下「会社」という。）が別に定める日から令和4年3月31日までは下表1の車種区分に応じた料金の額を適用し、令和4年4月1日以降は下表2の車種区分に応じた料金の額を適用する。

表1

車種区分	料金の額（円）
軽自動車等	251.5488
普通車	276.9360
中型車	285.8215
大型車	359.4444
特大車	421.6430

表2

車種区分	料金の額（円）
軽自動車等	251.5488
普通車	276.9360
中型車	302.3232
大型車	359.4444
特大車	499.0740

また、適用した料金の額が下表に掲げる額を超える場合は、平成29年6月1日以降会社が別に定める日から令和4年3月31日までは下表3の車種区分に応じた料金の額を適用し、令和4年4月1日以降は下表4の車種区分に応じた料金の額を適用する。

表 3

車種区分	料金の額 (円)
軽自動車等	993.0912
普通車	1203.8640
中型車	1277.6345
大型車	1888.8756
特大車	2405.2690

表 4

車種区分	料金の額 (円)
軽自動車等	993.0912
普通車	1203.8640
中型車	1414.6368
大型車	1888.8756
特大車	3048.1260

(注)

別添2又は別添3に掲げる出入口等をE T C専用施設のみが設置された出入口等に変更を行う場合は、事前に機構に届出を行うものとする。

二. 特例措置

- (1) 記〔4〕二の割引適用要件に該当する自動車の場合においては、会社が別に定める日までの間は、記一に定める料金の額に対して、記〔4〕二に定める割引を適用した額を料金の額とする。
- (2) 記〔4〕十の割引適用要件に該当する自動車の場合においては、会社が別に定める日までの間は、記一に定める料金の額が記〔4〕十の表2に掲げる割引後の額を超える場合は、記〔4〕十の表2に掲げる時間帯及び車種区分に応じた割引後の額を適用する。

〔3〕 特別の措置

一. 1キロメートル当たりの料金の額の特例

利用距離に対して課する1キロメートル当たりの料金の額は、記〔1〕一（1）にかかわらず、平成29年6月1日以降会社が別に定める日

から令和4年3月31日までの間、下表1を適用する。

なお、未供用の路線又は区間については、供用開始の期日から適用する。

表1

車種区分	料金の額 (円)
軽自動車等	23.616
普通車	29.52
中型車	31.5864
大型車	48.708
特大車	63.1728

二. 下限料金の額

記〔1〕及び〔3〕一に基づき算出した料金の額が下表に掲げる料金の額に満たない場合は、記〔1〕及び〔3〕一にかかわらず、平成29年6月1日以降会社が別に定める日から令和4年3月31日までの間は、下表2の車種区分に応じた料金の額を適用し、令和4年4月1日以降は、下表3の車種区分に応じた料金の額を適用する。なお、未供用の路線又は区間については、供用開始の期日から適用する。

表2

車種区分	料金の額 (円)
軽自動車等	251.5488
普通車	276.9360
中型車	285.8215
大型車	359.4444
特大車	421.6430

表3

車種区分	料金の額 (円)
軽自動車等	251.5488

普通車	276.9360
中型車	302.3232
大型車	359.4444
特大車	499.0740

(注)

- A 現金車は、入口等から利用可能な最遠の出口等までの距離（別添3に掲げる出入口等を利用する場合には、同表に掲げる距離）を利用距離とし、その利用距離に応じて料金の額を適用する。ただし、記〔1〕及び〔3〕一に基づき算出した料金の額が上表に掲げる料金の額に満たない場合は、上表2又は上表3の料金の額を適用する。
- B 未供用の路線の供用開始等の理由により、別添2又は別添3に掲げる表について軽微な変更を行う場合には、事前に機構に届出をする。

三. 相互利用時の料金の額

(1) 一般国道2号（第二神明道路）との相互利用区間の料金の額

下表に掲げる区間のみを通行する自動車から徴収する料金の額については、記〔1〕、〔2〕並びに〔3〕一及び二にかかわらず、一般国道2号（第二神明道路）との通行を1回の利用としたうえで、一般国道2号（第二神明道路）の料金の額を含め、西日本高速道路株式会社が道路整備特別措置法（昭和31年法律第7号）第3条の規定に基づく国土交通大臣の許可を受けた料金の額及び割引制度を適用した額とする。

路線名	相互利用区間の料金を徴収する区間
兵庫県道高速北神戸線及び神戸市道高速道路湾岸線	伊川谷JCTから永井谷JCTまでの区間及び垂水JCTから名谷JCTまでの区間の全部又は一部

(2) 一般国道1号（淀川左岸線延伸部）相互利用時の料金の額

阪神高速道路を通行する自動車が、西日本高速道路株式会社の管理する一般国道1号（淀川左岸線延伸部）（以下「西日本高速分」という。）を連続して通行する場合は、記〔1〕二（1）又は記〔2〕一に定める利用距離と西日本高速分の利用距離を通算し、当該通行を1回の利

用としたうえで、西日本高速分を含め、記〔1〕、〔2〕及び〔3〕一に基づき算出した料金の額とする。（記〔4〕一から五まで、八及び十一から十三までにおいて同じ。）

四. 神戸市道生田川箕谷線を通行する場合の料金の額

記〔1〕及び〔2〕にかかわらず、神戸市道生田川箕谷線のみを通行する道路運送車両法施行規則（昭和26年運輸省令第74号）第1条第2項に規定する第二種原動機付自転車の料金の額は、47.619円を適用する。

〔4〕基本料金及び特別の措置における割引

一. 上限料金の引下げに係る割引については、以下のとおりとする。

（1）割引を適用する自動車

出入口等の相互間を通行する軽自動車等、普通車、中型車、大型車及び特大車

（2）割引後の額

記〔1〕及び〔3〕一に基づき算出した料金の額が、下表に掲げる割引後の額を超える場合は、平成29年6月1日以降会社が別に定める日から令和4年3月31日までの間は下表1の車種区分に応じた割引後の額を適用し、令和4年4月1日以降は、下表2の車種区分に応じた割引後の額を適用する。

表1

車種区分	割引後の額（円）
軽自動車等	993.0912
普通車	1203.8640
中型車	1277.6345
大型車	1888.8756
特大車	2405.2690

表2

車種区分	割引後の額（円）
軽自動車等	993.0912

普通車	1203.8640
中型車	1414.6368
大型車	1888.8756
特大車	3048.1260

二. 障害者割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

社会福祉法（昭和26年法律第45号）第14条に基づく福祉に関する事務所（市町村及び特別区が設置したものに限る。）又は当該事務所を設置していない町村において、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により交付されている身体障害者手帳又は療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号厚生事務次官通知「療育手帳制度について」別紙）の定めるところにより交付されている療育手帳（以下「手帳」という。）に、以下の①又は②の要件を満たすものとして、会社が別に定めるところにより事前に自動車登録番号又は車両番号等必要事項の記載の手続きがなされた自動車

- ① 手帳の交付を受けている者が、手帳を携行して自ら運転する自動車のうち日常生活の用に供され、本人又はその親族等が所有する自動車（営業用の自動車を除く。）で、会社が別に定めるもの
- ② 手帳の交付を受けている者のうち、重度の障害を持つ者として身体障害者福祉法施行規則（昭和25年厚生省令第15号）別表第5号に定める障害の等級又は「療育手帳制度の実施について（昭和48年9月27日発第725号厚生省児童家庭局長通知）」の第三に定める障害の程度に基づき会社が別に定める者（以下「重度障害者」という。）が手帳を携行して乗車し、その移動のために本人以外の者が運転する自動車のうち日常生活の用に供され、当該重度障害者又はその親族等が所有する（これらの者がこれらの自動車を所有していない場合にあつては、当該重度障害者を継続して日常的に介護している者が所有する）自動車（営業用の自動車を除く。）で、会社が別に定めるもの

なお、上記自動車がETCシステムを利用して無線通信により通行料金の支払を行おうとする場合は、会社が別に定めるところにより事前に登録がなされた、ETCクレジットカード〔会社との契約に基づきETCカード〔建設省令第2条第2項の規定に基づき東日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社、会社及び本州四国連絡高速道路株式会社（以下「六会社」という。）が公告したETCシステム利用規程（以下「利用規程」という。）第3条第1号に規定するETCカードをいう。以下同じ。〕を発行する者から貸与を受けたETCカードをいう。以下同じ。〕又はETCパーソナルカード（六会社が契約に基づき共同で発行し、貸与するETCカードをいう。以下同じ。）と車載器（利用規程第3条第1号に規定する車載器をいう。以下同じ。）をともに使用する場合に限る。

(2) 割引率

割引率は50%以下とする。

三. ETC路線バス割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

ETC車のうち、ETCコーポレートカード〔東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社及び西日本高速道路株式会社（以下「三会社」という。）が別に定める約款（以下「利用約款」という。）により、三会社が実施する大口・多頻度割引の適用に関する契約を三会社のいずれかと締結した利用者が、当該契約に基づいて契約相手方の会社に利用約款第4条第2項第1号に規定する車載器管理番号の届出がなされた車載器を備え、かつ、当該車載器に利用するものとして当該会社から貸与されたETCカードをいう。以下同じ。〕を使用して通行料金の支払を行おうとする路線バス（乗車定員30人以上の自動車のうち道路運送法（昭和26年法律第183号）第3条第1号イに規定する一般乗合旅客自動車運送事業の用に供するものであり、かつ、会社がその主たる旅客が観光を目的とするものでないと認定したものをいう。）。ただし、記〔3〕三（1）の区間のみを通行する自動車を除く。

(2) 割引率

割引率は39%以下とする。

四. 環境ロードプライシング割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

ETC車のうち、兵庫県道高速湾岸線のうち六甲アイランド北出入口から甲子園浜出入口までの区間の一部を含む区間を通行（記〔7〕一に定める通行方法による場合を含む。）する自動車〔ただし、連続して兵庫県道高速神戸西宮線のうち摩耶出入口から西宮IC出入口までの区間、兵庫県道高速大阪西宮線、大阪府道高速大阪西宮線又は一般国道2号（大阪湾岸道路西伸部）を通行する場合は除く。〕並びに大阪府道高速湾岸線及び兵庫県道高速湾岸線のうち天保山出入口から鳴尾浜出入口までの区間の全部又は一部の区間及び大阪市道高速道路淀川左岸線のうち北港JCT（淀川左岸舞洲出入口を含む。）から大開出入口までの区間の全部又は一部の区間を通行する自動車（ただし、当該区間のみを通行する場合に限る。）で、次に掲げるもの

① 大型車及び特大車

② 中型車のうちETCコーポレートカード（会社が別に定めるところにより、本割引の適用を受けるため事前に会社に登録がなされている場合に限る。）を使用して、通行料金の支払を行おうとする利用者の自動車（以下、(2)において「登録中型車」という。）

ただし、本割引が適用される時点において供用されていない出入口等については、当該出入口等に係る供用開始の期日から本割引を適用

する。

(2) 割引率等

① 割引率

割引率は30%とする。ただし、下表1に掲げる利用区間を通行する場合は、同表に掲げる自動車の区分に応じ、それぞれ同表の割引率を適用する。

表1

利用区間	割引率	
	大型車及び特大車	登録中型車
兵庫県道高速湾岸線のうち六甲アイランド北出入口から南芦屋浜出入口までの一部を含む区間と大阪府道高速湾岸線のうち中島出入口から天保山出入口までの区間、又は大阪市道高速道路淀川左岸線のうち北港JCTから大開出入口までの区間を越えて連続して通行（記〔7〕一に定める通行方法による場合を含む。）する場合。ただし、大阪府道高速湾岸線のうち岸和田北出入口からりんくうJCTまでの区間の出入口を起着点とする場合は除く。	15%	
兵庫県道高速湾岸線のうち西宮浜出入口を起着点として、大阪府道高速湾岸線のうち中島出入口から天保山出入口までの区間又は大阪市道高速道路淀川左岸線のうち北港JCTから大開出入口までの区間を越えて連続して通行する場合	10%	
大阪府道高速湾岸線のうち岸和田北出入口からりんくうJCTまでの区間の出入口を起着点として、兵庫県道高速湾岸線のうち甲子園浜出入口から六甲アイランド北出入口までの区間の一部を含む区間と連続して通行（記〔7〕一に定める通行方法による場合を含む。）する場合。ただし、西宮浜出入口を起着点として通行する場合は除く。		

② 割引後の額

下表2に掲げる利用区間を通行する場合には、記①本文の割引率を適用した割引後の額が下表2に掲げる区分に応じた割引後

の額を超える場合は、同表に掲げる自動車の区分に応じ、それぞれ同表の割引後の額を適用する。

表 2

利用区間	割引後の額 (円)	
	大型車及び特大車	登録中型車
兵庫県道高速湾岸線のうち尼崎末広出入口（東行出口及び西行入口に限る。）又は尼崎東海岸出入口を起着点として、兵庫県道高速湾岸線のうち南芦屋浜出入口から六甲アイランド北出入口までの区間の一部を含む区間を通行（記〔7〕一に定める通行方法による場合を含む。）する場合	933.333	466.666
兵庫県道高速湾岸線のうち、六甲アイランド北出入口から甲子園浜出入口までの区間の一部を含む区間を通行（記〔7〕一に定める通行方法による場合を含む。）する場合。ただし、西宮浜出入口を起着点として通行する場合及び兵庫県道高速湾岸線のうち甲子園浜出入口から鳴尾浜出入口までの区間の一部を含む区間を連続して通行する場合は除く。	666.666	333.333
兵庫県道高速湾岸線のうち、西宮浜出入口から甲子園浜出入口までの区間のみ及び鳴尾浜出入口から尼崎東海岸出入口までの区間の全部又は一部の区間のみを連続して通行する場合	533.333	266.666
兵庫県道高速湾岸線のうち、西宮浜出入口から甲子園浜出入口までの区間のみ又は鳴尾浜出入口から尼崎東海岸出入口までの区間の全部若しくは一部の区間のみを通行する場合	266.666	133.333

五. 事業者向け大口・多頻度割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

E T C車のうち、E T Cコーポレートカードを会社が別に定めるところにより使用して通行料金の支払を行おうとする利用者の自動車。ただし、記〔3〕三（1）の区間のみを通行する自動車を除く。

(2) 割引率

① 車両単位割引

イ 記（1）の自動車が使用するE T Cコーポレートカード1枚ごとに徴収する料金の額の1ヵ月の合計額に応じて、下表1に掲げる

割引率を適用する。ただし、平成29年6月1日以降会社が別に定める日から令和14年3月31日までの間にあつては、下表1にかかわらず、下表2に掲げる割引率を適用する。

ロ 平成29年6月1日以降会社が別に定める日から令和14年3月31日までの間〔ただし、下表3の兵庫県道高速神戸西宮線のうち一般国道2号（第二神明道路）との接続部から摩耶出入口までの区間にあつては、一般国道2号（大阪湾岸道路西伸部）の供用開始の期日の前日までの間に限る。〕においては、イに加えて、同表に掲げる路線のみの通行（同表に掲げる路線のみを連続して通行する場合を含む。）に係る月間利用金額（以下「月間要件通行利用金額」という。）に応じて、下表4に掲げる割引率を月間要件通行利用金額に適用する。ただし、本割引が適用される時点において供用されていない出入口等については、当該出入口等に係る供用開始の期日から本割引を適用する。

表1

月間利用額区分	割引率
5,000円以下の部分	0%
5,000円超～10,000円以下の部分	3%
10,000円超～35,000円以下の部分	6%
35,000円超～70,000円以下の部分	8%
70,000円を超える部分	13%

表2

月間利用額区分	割引率
5,000円以下の部分	0%
5,000円超～10,000円以下の部分	10%
10,000円超～30,000円以下の部分	15%
30,000円を超える部分	20%

表3

路線名
大阪府道高速大阪松原線のうち大阪府道高速大和川線との分合流部から松原JCTまでの区間
大阪府道高速湾岸線

大阪府道高速大和川線
大阪市道高速道路淀川左岸線
兵庫県道高速神戸西宮線のうち一般国道2号（第二神明道路）との接続部から摩耶出入口までの区間
兵庫県道高速湾岸線
神戸市道高速道路2号線
兵庫県道高速北神戸線
神戸市道高速道路北神戸線

表4

月間要件通行利用金額	割引率
10,000円以下の部分	0%
10,000円を超える部分	5%

② 契約単位割引

イ 利用約款により三会社が実施する大口・多頻度割引の適用に関する契約に基づく利用者の阪神高速道路における月間利用額の合計額が100万円を超え、かつ、利用者の自動車1台当たりの月間平均利用額が5,000円を超える場合にあっては、利用者の月間利用額の合計額に対し、10%の割引率を適用する。

ロ この割引は令和14年3月31日までとする。

六. 大阪都心流入割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

ETC車

(2) 割引を適用する利用距離

下表のA欄に掲げる西日本高速道路株式会社又は会社が管理する道路、B欄に掲げる西日本高速道路株式会社が管理する区間及びC欄に掲げるジャンクションを連続して通行し、D欄に掲げる出入口等を利用した場合（ただし、B欄に記載が無い場合は、A欄に掲げる西日本高速道路株式会社又は会社が管理する道路及びC欄に掲げるジャンクションを連続して通行し、D欄に掲げる出入口等を利用した場合）の出入口等の相互間の距離（A欄の大阪府道高速大阪東大阪線を通行し、当該通行において会社が管理する道路の通行が2回となる場合は、

これを1回の通行とみなす。)は、それぞれE欄に掲げる利用距離を適用する。なお、未供用の路線の供用開始等の理由により、同表について軽微な変更を行う場合には、事前に機構に届出をする。

A	B	C	D	E
一般国道1号(第二京阪道路)〔ただし、ETC2.0車以外のETC車は、当該道路の出入口(一般国道1号(油小路線)との接続部を除く。)を起点又は終点とする場合に限る。〕	門真JCTから守口JCTまで	守口JCT	北浜、本町、道頓堀、夕陽丘(出口に限る)、なんば、信濃橋(出口に限る)、土佐堀又は湊町(出口に限る)	9.1km
	門真JCTから東大阪JCTまで	東大阪JCT		
	門真JCTから松原JCTまで	松原JCT		
	門真JCTから守口JCTまで	守口JCT	堂島、高麗橋、長堀、高津、夕陽丘(入口に限る)、えびす町、四ツ橋、信濃橋(入口に限る)又は湊町(入口に限る)	8.6km
	門真JCTから東大阪JCTまで	東大阪JCT		
	門真JCTから松原JCTまで	松原JCT		
大阪府道高速大阪東大阪線のうち一般国道163号(第二阪奈道路)との接続部から東大阪JCTまでの区間	東大阪JCTから守口JCTまで	守口JCT	北浜、本町、道頓堀、夕陽丘(出口に限る)、なんば、信濃橋(出口に限る)、土佐堀又は湊町(出口に限る)	A欄に掲げる道路の通行時に、中野入口を利用した場合10.0km、水走入口を利用した場合12.1km、一般国道163号(第二阪奈道路)との接続部を利用した場合12.7km
	—	東大阪JCT		
	東大阪JCTから松原JCTまで	松原JCT		

	東大阪 J C T から守口 J C T まで	守口 J C T	堂島、高麗橋、長堀、高津、夕陽丘（入口に限る）、えびす町、四ツ橋、信濃橋（入口に限る）又は湊町（入口に限る）	A 欄に掲げる道路の通行時に、中野出口を利用した場合 9.5km、水走出口を利用した場合 11.6km、一般国道 163号（第二阪奈道路）との接続部を利用した場合 12.2km
	—	東大阪 J C T		
	東大阪 J C T から松原 J C T まで	松原 J C T		
高速自動車国道近畿自動車道天理吹田線（西名阪自動車道）	松原 J C T から守口 J C T まで	守口 J C T	北浜、本町、道頓堀、夕陽丘（出口に限る）、なんば、信濃橋（出口に限る）、土佐堀又は湊町（出口に限る）	11.4km
	松原 J C T から東大阪 J C T まで	東大阪 J C T		9.1km
	—	松原 J C T		12.8km
	松原 J C T から守口 J C T まで	守口 J C T	堂島、高麗橋、長堀、高津、夕陽丘（入口に限る）、えびす町、四ツ橋、信濃橋（入口に限る）又は湊町（入口に限る）	11.5km
	松原 J C T から東大阪 J C T まで	東大阪 J C T		8.6km
	—	松原 J C T		12.7km
一般国道165号（南阪奈道路）	美原 J C T から守口 J C T まで	守口 J C T	北浜、本町、道頓堀、夕陽丘（出口に限る）、	11.4km

	美原 J C T から東大阪 J C T まで	東大阪 J C T	なんば、信濃橋（出口に限る）、土佐堀又は湊町（出口に限る）	9.1km
	美原 J C T から松原 J C T まで	松原 J C T		12.8km
	美原 J C T から守口 J C T まで	守口 J C T	堂島、高麗橋、長堀、高津、夕陽丘（入口に限る）、えびす町、四ツ橋、信濃橋（入口に限る）又は湊町（入口に限る）	11.5km
	美原 J C T から東大阪 J C T まで	東大阪 J C T		8.6km
	美原 J C T から松原 J C T まで	松原 J C T		12.7km

(注) 上表の「E T C 2. 0 車」は、E T C 車のうち、一般財団法人 I T S サービス高度化機構が定める E T C 2. 0 車載器 D S R C 部使用規程第 1 条に規定する車載器 D S R C 部を使用し、国土交通省、六会社、名古屋高速道路公社、福岡北九州高速道路公社及び広島高速道路公社（以下「国等」という。）が定める車載器の I D 付きプローブ情報の利用及び取り扱い方針（以下「方針」という。）に基づき、国等に方針 1. (1) に規定する車載器の I D 付きプローブ情報の提供を行う自動車という。

(3) 実施する期間

この割引は令和 1 4 年 3 月 3 1 日までとする。

七. 神戸都心流入割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

E T C 車のうち、兵庫県道高速北神戸線、神戸市道高速道路 2 号線及び兵庫県道高速神戸西宮線又は兵庫県道高速北神戸線及び神戸市道生田川箕谷線を連続して通行する自動車

(2) 割引後の額

① 一般国道 2 号（第二神明道路）と連続して兵庫県道高速北神戸線伊川谷 J C T から下表 1 に掲げる出入口までの区間を通行する場合の料金の額が、次の算式により算出した額を超える場合は、算出した額を割引後の額とする。

$$X - Y$$

(注) この算式において X、Y はそれぞれ次の数値を表すものとする。この場合において、一般国道 2 号（第二神明道路）の料金の額

は、西日本高速道路株式会社が道路整備特別措置法第3条の規定に基づく国土交通大臣の許可を受けた料金の額及び割引制度（ただし、マイレージ割引及び障害者割引を除く）を適用した額とする。

X：兵庫県道高速神戸西宮線のうち一般国道2号（第二神明道路）との接続部から生田川出入口までの区間と一般国道2号（第二神明道路）のうち利用する出入口から兵庫県道高速神戸西宮線との接続部までの区間を連続して通行した場合の料金の合計額

Y：一般国道2号（第二神明道路）のうち利用する出入口から伊川谷JCTまでの区間の料金の額

表1

出入口
生田川、京橋、柳原、神戸長田、国道2号、二宮、神若、新神戸駅

② 下表2の左欄に掲げる出入口等と右欄に掲げる出入口の組合せで連続して通行した場合の料金の額が次のイ又はロの額を超える場合は、イ又はロのいずれか低い額を割引後の額とする。

イ 下表2の左欄に掲げる各出入口等から兵庫県道高速神戸西宮線生田川出入口まで通行した場合の料金の額

ロ 一般国道2号（第二神明道路）玉津出入口を利用した場合の上記①のXの料金の額

表2

出入口等	出入口
永井谷、前開、布施畑JCT、布施畑東	生田川、京橋、柳原、国道2号、二宮、神若、新神戸駅

(3) 実施する期間

この割引は令和14年3月31日までとする。

八. 短距離区間利用割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

ETC車のうち、入口等Aから当該入口等Aの直後の出口等Bまでの利用距離が4.3km以下である区間を通行する自動車。なお、当該B

を入口等として当該Aを出口等として通行する場合において、当該BA区間（BからA方向に通行する間に他の出口がある場合も含む。）においても当該割引を適用する。ただし、記〔3〕三（1）の区間のみを通行する自動車を除く。

（2）割引後の額

記〔1〕及び〔3〕一に基づき算出した料金の額が、平成29年6月1日以降会社が別に定める日から令和4年3月31日までの間は記〔3〕二の表2、令和4年4月1日以降は記〔3〕二の表3に掲げる車種区分に応じた料金の額を超える場合は、当該料金の額を適用する。なお、未供用の路線又は区間については、供用開始の期日から適用する。

（3）実施する期間

この割引は令和14年3月31日までとする。

九. 池田線時間帯割引については、以下のとおりとする。

（1）割引を適用する自動車

E T C車のうち、大阪府道高速大阪池田線及び兵庫県道高速大阪池田線のうち神田出入口から池田木部出入口までの区間の全部又は一部の区間のみを通行する自動車

（2）割引後の額

記〔1〕及び〔3〕一に基づき算出した料金の額が、下表に掲げる区分、時間帯及び車種ごとに、割引後の額を超える場合、同表の割引後の額を適用する。

区分	時間帯	割引後の額（円）	
		軽自動車等・普通車・中型車	大型車・特大車
平日 （月曜日～金曜日）	6：00以後～9：00前	142.857	285.714
	17：00以後～20：00前		

（注）平日（月曜日～金曜日）は、祝日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条に定める休日及び会社が別に定める日とする。）を除く。

（3）実施する期間

この割引は令和14年3月31日までとする。

十. 西大阪線端末区間割引については、以下のとおりとする。

(1) 割引を適用する自動車

大阪市道高速道路西大阪線のうち北津守出入口から安治川出入口までの区間の全部又は一部の区間のみを通行する自動車

(2) 割引後の額

記〔1〕及び〔3〕一に基づき算出した料金の額が下表に掲げる割引後の額を超える場合は、E T C車は、下表1に掲げる時間帯及び車種区分に応じた割引後の額を適用し、現金車は下表2に掲げる時間帯及び車種区分に応じた割引後の額を適用する。

表1

区分	時間帯	割引後の額 (円)	
		軽自動車等・普通車・中型車	大型車・特大車
全日	6:00 以後～22:00 前	190.476	380.952
	0:00 以後～6:00 前 22:00 以後～24:00 前	95.238	190.476

表2

区分	時間帯	割引後の額 (円)	
		軽自動車等・普通車・中型車	大型車・特大車
全日	終日	190.476	380.952

(3) 実施する期間

この割引は令和14年3月31日までとする。

十一. 阪神高速道路企画割引については、以下のとおりとする。

会社は、貸付料の支払いに支障のない範囲内で、以下のとおり割引を実施することができる。

(1) 割引を適用する自動車

E T C車

- (2) 割引率等
個々の企画割引ごとに企画内容に合わせて割引率等を適宜設定する。
- (3) 割引を実施する期間
個々の企画割引ごとに企画内容に合わせて実施する期間を設定する。
- (4) 割引を適用する区間
適用区間については、関西都市圏の活性化を支援するため、交通状況の変動や路線の特性に対応しつつ、物流効率化、観光振興、阪神高速道路又はその周辺道路の渋滞緩和、沿道環境の改善その他阪神高速道路の利用促進に資するものとし、個々の企画割引ごとに企画内容に合わせて設定する。
- (5) 事前の届出
個々の企画割引ごとに記（１）から記（４）までの内容について、事前に機構に届出をする。

十二. 有料道路の料金に係る社会実験に関する割引については、以下のとおりとする。

- (1) 割引を適用する自動車
阪神高速道路を通行し、有料道路の料金に係る社会実験に参加する自動車
- (2) 割引率等
個々の社会実験ごとに実験内容に合わせて割引率等を適宜設定する。
- (3) 割引を実施する期間
個々の社会実験ごとに実験内容に合わせて実施する期間を限定する。
- (4) 割引を適用する区間
個々の社会実験ごとに実験内容に合わせて適用する区間を限定する。
- (5) 事前の届出
個々の社会実験ごとに記（１）から記（４）までの詳細について、事前に機構に届出をする。

十三. 割引相互間の適用関係

- (1) 障害者割引を受ける自動車に重複して適用される割引は、上限料金の引下げに係る割引、大阪都心流入割引及び神戸都心流入割引に限るものとし、上限料金の引下げに係る割引及び大阪都心流入割引又は神戸都心流入割引を適用した後の金額に対して障害者割引を適用する。ただし、障害者割引を適用した場合と比較して、障害者割引との重複適用のない割引（以下「非重複割引等」という。）を適用した場合の方

が低い額になる場合は、非重複割引等を適用する。

- (2) ETC路線バス割引を受ける自動車に重複して適用される割引は、上限料金の引下げに係る割引、大阪都心流入割引及び神戸都心流入割引に限るものとし、上限料金の引下げに係る割引及び大阪都心流入割引又は神戸都心流入割引を適用した後の金額に対して当該割引を適用する。
- (3) 上限料金の引下げに係る割引、環境ロードプライシング割引、事業者向け大口・多頻度割引、大阪都心流入割引、神戸都心流入割引、短距離区間利用割引、池田線時間帯割引及び西大阪線端末区間割引の相互間の重複適用関係については、以下のとおりとする。

① 重複適用の有無

- ・・・重複適用あり
 ×・・・重複適用なし

	上限料金							
環境RP	○	環境RP						
大口・多頻度	○	○	大口・多頻度					
大阪流入	○	×	○	大阪流入				
神戸流入	○	×	○	×	神戸流入			
短距離	○	×	○	×	×	短距離		
池田	○	×	○	×	×	×	池田	
西大阪	○	×	○	×	×	×	×	西大阪

(注)「上限料金」は上限料金の引下げに係る割引、「環境RP」は環境ロードプライシング割引、「大口・多頻度」は事業者向け大口・多頻度割引、「大阪流入」は大阪都心流入割引、「神戸流入」は神戸都心流入割引、「短距離」は短距離区間利用割引、「池田」は池田線時間帯割引、「西大阪」は西大阪線端末区間割引をそれぞれ指すものとする。

② 重複適用の順序

適用の順序	割引の種類
1	上限料金の引下げに係る割引
2	大阪都心流入割引又は神戸都心流入割引
3	環境ロードプライシング割引
4	短距離区間利用割引又は池田線時間帯割引若しくは西大阪線端末区間割引を比較して割引後の額が低い額となる割引を適用
5	事業者向け大口・多頻度割引

〔5〕消費税等の取扱い及び料金の単位

次の各号に掲げる額について、四捨五入により、10円単位の端数処理を行うこととする。ただし、事前に機構に届出を行うことで、切捨てにより、10円単位の端数処理を行うことができる。

- 一. 記〔1〕二（2）に定める方法により算出した車種ごとの出入口等の相互間の料金の計算額に消費税法（昭和63年法律第108号）及び地方税法（昭和25年法律第226号）に定める消費税額及び地方消費税額に相当する額を加算した額
- 二. 記〔2〕一並びに〔3〕二、三（2）及び四に定める料金の額に消費税法及び地方税法に定める消費税額及び地方消費税額に相当する額を加算した額
- 三. 記〔4〕一、四、六、七、八、九及び十に定める割引を適用した額（記一、四、七、八、九及び十に定める割引後の額が適用される場合においては、消費税法及び地方税法に定める消費税額及び地方消費税額に相当する額を加算した額）

〔6〕料金の徴収期間

平成18年4月1日から令和4年9月18日までとする。

〔7〕その他

一. 乗継について

阪神高速道路のうち下表のA路線欄に掲げる路線とB路線欄に掲げる路線とを引き続いて通行する場合（ただし、会社が別に定める出入口等を通行する場合に限る。）であって、乗継券を提出した自動車又はETCシステムに当該通行実績を記録したETC車それぞれについて、会社が別に定める期間、これを1回の通行とみなす。（ただし、乗継券の提出による乗継は、会社が別に定める出入口等をETC専用施設のみが設置さ

れた出入口等に変更するときまでとする。) なお、未供用の路線の供用開始等の理由により、同表について軽微な変更を行う場合には、事前に機構に届出をする。

A路線	B路線	備考
大阪府道高速大阪堺線	大阪府道高速湾岸線 (大浜出入口以南)	A路線とB路線とが大阪府道高速大和川線によって接続するまでの間に限る。
兵庫県道高速神戸西宮線 (摩耶出入口以西)	兵庫県道高速湾岸線	
大阪府道高速大阪西宮線又は大阪府道高速湾岸線	大阪府道高速大阪池田線 (堂島入口以東)	A路線からB路線へ通行する場合に限る。
兵庫県道高速神戸西宮線	神戸市道生田川箕谷線	A路線とB路線とをE T C車で通行する場合に限る。

二. 実施期日

記〔1〕から記〔5〕及び〔7〕に掲げる事項は会社が別に定める日から実施し、それまでの間は従前のおりとする。

車種区分	自動車の種類	定義
軽自動車等	イ 軽自動車	道路運送車両法（昭和26年法律第185号。以下「法」という。）第3条の軽自動車
	ロ 小型特殊自動車	法第3条の小型特殊自動車
	ハ 小型二輪自動車	法第3条の小型自動車のうち、二輪自動車（側車付き二輪自動車を含む。）であるもの
普通車	ニ 小型自動車	法第3条の小型自動車で、人の運送の用に供するものにあつては、乗車定員が10人以下のもの（ハに該当するものを除く。）
	ホ 普通乗用自動車	法第3条の普通自動車のうち、人の運送の用に供する乗車定員が10人以下のもの
	ヘ けん引自動車が軽自動車等である連結車両	けん引するための構造及び装置を有する自動車（以下「けん引自動車」という。）のうち、イないしハに該当するものとけん引されるための構造及び装置を有する自動車（以下「被けん引自動車」という。）との連結車両で、被けん引自動車の車軸数が1のもの
中型車	ト 普通貨物自動車 （車両総重量8トン未満かつ最大積載量5トン未満で3車軸以下）	法第3条の普通自動車のうち、貨物の運送の用に供するもの（以下「普通貨物自動車」という。）で、車両総重量8トン未満かつ最大積載量5トン未満で車軸数が3以下のもの又は被けん引自動車を連結していないセミトレーラ用トラック（2車軸）
	チ 乗合型自動車 （乗車定員11人以上29人以下で車両総重量8トン未満）	法第3条の普通自動車のうち、人の運送の用に供する乗車定員11人以上のもの（以下「乗合型自動車」という。）で、乗車定員が29人以下であり、かつ車両総重量8トン未満の

		もの
	リ けん引自動車が軽自動車等又は普通車である連結車両	イないしハに該当するけん引自動車と、被けん引自動車（2車軸以上）との連結車両及びニ又はホに該当するけん引自動車と被けん引自動車（1車軸）との連結車両
大型車	ヌ 普通貨物自動車（車両総重量8トン以上又は最大積載量5トン以上で3車軸以下、及び車両総重量が車両制限令第3条第1項第2号イに定める値以下かつ4車軸）	普通貨物自動車のうち、車両総重量8トン以上又は最大積載量5トン以上で車軸数が3以下のもの（トに該当するものを除く。）、車両の総重量、長さ等が車両制限令（昭和36年政令第265号）第3条第1項に定める限度以下で、車軸数が4のもの及び被けん引自動車を連結していないセミトレーラ用トラクタ（3車軸）
	ル 乗合型自動車 （路線を定めて定期若しくは臨時に運行するもの等）	乗合型自動車で、乗車定員が30人以上又は車両総重量8トン以上のもののうち、道路運送法（昭和26年法律第183号）第4条に規定する許可を受けて同法第3条第1号イに掲げる一般乗合旅客自動車運送事業を営業者であつて当該許可に係る路線を定期に運行するもの及びこれに類するものとして阪神高速道路株式会社が認めたもの及び同法第3条第1号ロに掲げる一般貸切旅客自動車運送事業を営業者が同法第21条第2号に規定する許可を受けて当該許可に係る路線を運行するもの、並びに車両総重量8トン以上のもののうち、乗車定員が29人以下で、かつ車両の長さが9メートル未満のもの
	ヲ けん引自動車が普通車、中型車又は大型車（2車軸）である連結車両	ニ又はホに該当するけん引自動車と被けん引自動車（2車軸以上）との連結車両、ト又はチに該当するけん引自動車と被けん引自動車（1車軸）との連結車両及びヌ又はルに該当するけん引自動車（2車軸）と被けん引自動車（1車軸）との連結車両
特大車	ワ 普通貨物自動車	普通貨物自動車で、車軸数が4以上のもの（ヌに該当する

	(4車軸以上)	ものを除く。)
	カ 連結車両	けん引自動車と被けん引自動車との連結車両 (へ、リ及び ヲに該当するものを除く。)
	ヨ 大型特殊自動車	法第3条の大型特殊自動車
	タ 乗合型自動車 (その他)	乗合型自動車で、乗車定員が30人以上又は車両総重量8 トン以上のもの (ルに該当するものを除く。)

大阪府道高速湾岸線・兵庫県道高速湾岸線・一般国道2号（大阪湾岸道路西伸部）
（4号・5号湾岸線）

	岸和田北	岸和田南 (北行)	岸和田南 (南行)	貝塚(北行)	貝塚(南行)	泉佐野北	泉佐野南	りんくう JCT
								-
						1.9	4.1	5.0
				0.9	-	4.4	6.6	7.5
		3.2	-	5.3	-	8.8	11.0	11.9
泉大津(南行)	2.3	5.5	-	7.6	-	11.1	13.3	14.2
泉大津(北行)	-	-	-	-	-	-	-	-
助松	5.0	8.2	-	10.3	-	13.8	16.0	16.9
高石	6.8	10.0	-	12.1	-	15.6	17.8	18.7
浜寺	-	-	-	-	-	-	-	-
石津	10.3	13.5	-	15.6	-	19.1	21.3	22.2
出島	-	-	-	-	-	-	-	-
大浜	13.1	16.3	-	18.4	-	21.9	24.1	25.0
三宝・三宝JCT	15.7	18.9	-	21.0	-	24.5	26.7	27.6
南港南	18.2	21.4	-	23.5	-	27.0	29.2	30.1
南港中	-	-	-	-	-	-	-	-
南港北	-	-	-	-	-	-	-	-
天保山・天保山JCT	24.4	27.6	-	29.7	-	33.2	35.4	36.3
湾岸舞洲・北港JCT	26.5	29.7	-	31.8	-	35.3	37.5	38.4
中島	29.1	32.3	-	34.4	-	37.9	40.1	41.0
尼崎東海岸	-	-	-	-	-	-	-	-
尼崎末広	31.4	34.6	-	36.7	-	40.2	42.4	43.3
鳴尾浜	33.6	36.8	-	38.9	-	42.4	44.6	45.5
甲子園浜	-	-	-	-	-	-	-	-
西宮浜	36.9	40.1	-	42.2	-	45.7	47.9	48.8
南芦屋浜	-	-	-	-	-	-	-	-
深江浜	40.6	43.8	-	45.9	-	49.4	51.6	52.5
住吉浜・魚崎浜	43.1	46.3	-	48.4	-	51.9	54.1	55.0
六甲アイランド北	43.9	47.1	-	49.2	-	52.7	54.9	55.8
六甲アイランド西(仮称)	-	-	-	-	-	-	-	-
ポートアイランド東(仮称)	49.1	52.3	-	54.4	-	57.9	60.1	61.0
ポートアイランド西(仮称)	-	-	-	-	-	-	-	-
駒栄(仮称)	58.0	61.2	-	63.3	-	66.8	69.0	69.9
湊川JCT	58.4	61.6	-	63.7	-	67.2	69.4	70.3

神戸市道高速道路湾岸線
(相互利用区間)

名谷JCT	垂水JCT
	1.2

大阪市道高速道路淀川左岸線・一般国道1号（淀川左岸線延伸部）
（2号淀川左岸線）

							内環（仮称）	西日本・阪神 接続部（仮称）
						豊崎（仮称）	-	0.3
					大淀（仮称）	-	-	7.4
			大開	海老江北（仮称）・ 海老江JCT	2.0	4.2	-	11.6
	島屋・ ユニバーサルシティ	正蓮寺川	2.0	3.2	5.2	7.4	-	14.8
淀川左岸舞洲・ 北港JCT	0.9	-	-	-	-	-	-	-
			4.8	6.0	8.0	10.2	-	17.6

大阪府道高速大和川線
（6号大和川線）

						三宅西	松原線・ 大和川線分岐
					天美	-	0.6
			常磐（西行）	常磐（東行）	1.5	-	3.4
	鉄砲（西行）	鉄砲（東行）	3.1	-	5.7	-	7.6
三宝・ 三宝JCT	1.4	-	-	-	-	-	-
			5.2	-	7.8	-	9.7

- ・ E T C専用施設のみが設置された出入口等は「E T C」と表記する。

出入口等	利用距離 (km)
神田出口	3.2
東大阪荒本出口・東大阪JCT出口（中野方向から進行して流出する出口等に限る。）	3.6
三宅西出口	2.2
北津守出口	3.1
大正西出口	1.5
前開出口（永井谷方向から進行して流出する出口に限る。）	4.8
箕谷出口（二宮方向から進行して流出する出口に限る。）	8.5

別紙特 1 を次のとおり改める。

別紙特 1

(協定第 4 条第 3 項及び第 5 条第 3 項関連)

(機構法第 13 条第 1 項第 3 号及び 4 号に定める協定記載事項)

大阪府道高速大阪松原線等に関する 特定更新等工事の内容及び工事に要する費用に係る債務引受限度額

1. 工事の内容及び工事に要する費用に係る債務引受限度額

(1) 個別箇所に関する工事の内容及び工事に要する費用に係る債務引受限度額

(1) 路線名	大阪府道高速大阪松原線	兵庫県道高速神戸西宮線
(2) 工事の区間		
(イ) 工事の区間	大阪市平野区喜連西から 大阪市平野区瓜破西まで	兵庫県神戸市中央区波止場町付近
(ロ) 延長	0.2キロメートル	0.3キロメートル
(3) 工事方法		
(イ) 工事の概要	橋の架け替えを行い、構造全体を再整備する	橋の架け替えを行い、構造全体を再整備する
(ロ) 道路の区分	第2種第2級（道路構造令）	第2種第2級（道路構造令）
(ハ) 設計速度		
設計区間	大阪市平野区喜連西から 大阪市平野区瓜破西まで	兵庫県神戸市中央区波止場町付近
設計速度（キロメートル/時）	60キロメートル/時	60キロメートル/時
延長（キロメートル）	0.2キロメートル	0.3キロメートル
摘要		
(ニ) 設計自動車荷重	245kN（B活荷重）	245kN（B活荷重）
(ホ) 車線の幅員	3.25メートル	3.25メートル
(ヘ) 車線の数		
設計区間	大阪市平野区喜連西から 大阪市平野区瓜破西まで	兵庫県神戸市中央区波止場町付近
工事施工	4車線	4車線
用地買収	—	—
摘要		

路線名	大阪府道高速大阪松原線	兵庫県道高速神戸西宮線
(ト) 路肩の標準幅員		
桥梁高架部分		
往復分離しない区間 (メートル)	左側 : 1.75メートル	左側 : 1.25メートル
往復分離する区間 (メートル)	—	—
摘要		
トンネル部分		
往復分離しない区間 (メートル)	—	—
往復分離する区間 (メートル)	—	—
摘要		
土工 (掘割) 部分		
往復分離しない区間 (メートル)	—	—
往復分離する区間 (メートル)	—	—
摘要		
(チ) 付加車線の標準幅員	—	—
(リ) 中央帯の標準幅員	2.00メートル	1.80メートル
(ヌ) 他の道路との接続位置及び接続の方法	—	—
(4) 工事予算	24,206百万円	25,322百万円
(5) 工事の着手及び完成予定年月日		
(イ) 工事の着手 (予定) 年月日	令和2年4月1日	令和4年3月31日
(ロ) 工事の完成予定年月日	令和9年3月31日	令和11年3月31日
債務引受限度額 (消費税込み)	29,154百万円	31,554百万円
うち、助成対象基準額	27,899百万円	30,183百万円
備考	喜連瓜破付近	京橋付近

別紙特2を次のとおり改める。

別紙特2

(協定第4条第3項関連)

(機構法第13条第1項第3号に定める協定記載事項)

大阪府道高速大阪池田線等に関する 特定更新等工事の内容

1. 工事の内容

(1) 路線名及び工事の区間

(イ) 路線名	(ロ) 工事の区間	
	起点	終点
大豊橋付近		
大阪府道高速 兵庫県道高速 大阪池田線	大阪市淀川区加島二丁目	尼崎市戸ノ内町四丁目
法円坂付近		
大阪府道高速大阪東大阪線	大阪市中央区馬場町	大阪市中央区馬場町
湊町付近		
大阪府道高速大阪堺線	大阪市中央区難波一丁目	大阪市中央区難波二丁目
湊川付近		
兵庫県道高速神戸西宮線	神戸市兵庫区駅南通四丁目	神戸市長田区梅ヶ香町二丁目
湊町～本町、塚本～福島、南森町～長柄、芦原～住之江		
大阪府道高速大阪池田線	大阪市中央区西心齋橋二丁目	大阪市中央区本町一丁目
大阪府道高速大阪池田線	大阪市福島区海老江三丁目	大阪市淀川区塚本一丁目
大阪府道高速大阪守口線	大阪市北区西天満一丁目	大阪市北区長柄東一丁目
大阪府道高速大阪堺線	大阪市浪速区桜川三丁目	大阪市住之江区東加賀屋四丁目
その他（上記を除く区間）		
大阪府道高速 兵庫県道高速 大阪池田線	大阪市西成区山王	池田市木部町
大阪府道高速大阪守口線	大阪市北区中之島	守口市大日町
大阪府道高速大阪東大阪線	大阪市港区港晴	東大阪市西石切町
大阪府道高速大阪松原線	大阪市西成区山王	松原市大堀町
大阪府道高速大阪堺線	大阪市中央区高津	堺市堺区翁橋町
大阪府道高速大阪西宮線	大阪市西区西本町	大阪市西淀川区佃
大阪府道高速湾岸線	大阪市西淀川区中島	泉佐野市りんくう往来北
大阪市道高速道路森小路線	大阪市旭区中宮	大阪市旭区新森
大阪市道高速道路西大阪線	大阪市西成区南開	大阪市港区弁天
兵庫県道高速神戸西宮線	神戸市須磨区月見山町	西宮市今津水波町
兵庫県道高速大阪西宮線	尼崎市東本町	西宮市今津水波町
兵庫県道高速湾岸線	神戸市東灘区向洋町東	尼崎市東海岸町
兵庫県道高速北神戸線	神戸市西区伊川谷町潤和	西宮市山口町下山口

(2) 工事の内容

工事名		大阪府道高速大阪池田線等に関する特定更新等工事					
工事概要		(大豊橋付近)	(法円坂付近)	(湊町付近)	(湊川付近)	(湊町～本町) (福島～塚本) (南森町～長柄) (芦原～住之江)	(その他(左記を除く区間))
工事概要		橋梁上部工の造り替えを実施する。	橋梁上部工の造り替えを実施する。	橋梁基礎の造り替えを実施する。	橋梁上部工の造り替えを実施する。	床版の造り替え等を実施する	損傷、腐食その他の劣化等に対して構造物全体の修繕を実施する。 ・コンクリート構造物の防水対策、炭素繊維補強、鋼板補強等 ・鋼構造物の疲労対策、腐食対策等 ・床版の補修補強・造り替え、床版防水工、SFRC舗装等 ・その他(維持管理困難箇所における構造改良等)
道路の区分		第2種第2級(道路構造令)	第2種第2級(道路構造令)	第2種第2級(道路構造令)	第2種第2級(道路構造令)	—	—
延長		0.3キロメートル	0.2キロメートル	—	0.4キロメートル	3.1キロメートル	86キロメートル
設計速度		60キロメートル	60キロメートル	60キロメートル	60キロメートル	—	—
設計自動車荷重		245kN(B活荷重)	245kN(B活荷重)	245kN(B活荷重)	245kN(B活荷重)	—	—
車線の幅員		3.25メートル	3.25メートル	3.25メートル	3.25メートル	—	—
車線数	工事施工	4車線	4車線	3車線	4車線	—	—
	用地買収	—	—	—	—	—	—
路肩の標準幅員	往復分離しない区間(メートル)	左側:1.25	左側:0.525	—	左側:1.25	—	—
	往復分離する区間(メートル)	—	—	左側:1.50、右側1.00、計2.50	—	—	—
付加車線の標準幅員		—	—	—	—	—	—
中央帯の標準幅員		1.80メートル	1.45メートル	—	1.80メートル	—	—
他の道路との接続位置及び接続の方法 (他の道路の路線名、接続位置、接続の方法、備考)		—	—	—	—	—	—
工事予算		12,861百万円	5,667百万円	19,385百万円	16,344百万円	49,413百万円	264,182百万円
工事の着手(予定)年月日		平成27年4月1日					
工事の完成予定年月日		令和12年3月31日					

別紙特3を次のとおり改める。

別紙特3

(協定第5条第3項関連)

(機構法第13条第1項第4号に定める協定記載事項)

大阪府道高速大阪池田線等に関する 特定更新等工事に要する費用に係る債務引受限度額

大阪府道高速大阪池田線等に関する
特定更新等工事に要する費用に係る債務引受限度額

(百万円、消費税込み)

年度	債務引受限度額
H27	413
H28	255
H29	6,250
H30	15,011
R1	16,873
R2	5,798
R3	7,548
R4	113,919
R5	38,717
R6	56,948
R7	18,388
R8	22,989
R9	30,745
R10	32,767
R11	50,792

(注1)平成27年度から令和2年度までは実績値、令和3年度は実績見込値を記載している。

(注2)上記記載の債務引受限度額については、限度額に残余が生じた場合は、繰り越しを認めるものとする。

この協定の締結を証するため、本協定書2通を作成し、記名押印の上、各々1通を保有する。

令和4年3月25日

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構

理事長

渡邊 大樹

阪神高速道路株式会社

代表取締役社長

吉田 光市